

バカンスといえばやっぱり「ハワイ」でしょ！？ 青い海に 白い砂浜...福井の無人島で過ごす夏が、サイコーすぎる

Jタウンネット編集部 | 2021.08.05 14:11

提供元：福井県

暑い日が続いている。少し外を歩くだけでもぐったりしてしまうが、夏は楽しいことがいっぱいだ。

そう、たとえば海。そして海といえば、バカンスだ。

夏らしくビーチでバカンスを楽しみたい.....！

そんな思いを募らせた結果、記者は今、「ハワイ」を満喫している。



透き通る海、白い砂浜...最高の夏が来た！

やっぱりバカンスといえばハワイだ。間違いない。

青い空、白い砂浜.....綺麗な景色を見ていると、暑さはちっとも気にならない。



真っ白だー！

見てほしい、この美しい砂浜を！

固いアスファルトで疲弊した記者の足を優しく包み込んでくれる、サラサラの白い砂。これぞビーチの醍醐味だ。

そして、青く遠き通った海！



めちゃくちゃ遠きとおっている

太陽の光を浴びてキラキラ光っている。

もしや向こうに見えるのは、ハワイのスキューバダイビングの名所「ブラック・ロック」……？

“

「水の中を覗いたらきっと、色とりどりの熱帯魚が迎えてくれるんだろうな〜！」

鮮やかな光景を想像してうっとりしていると、耳に入ってくるのは穏やかな波の音。



静かで優しい波の音

元気いっぱいのアクティビティを楽しむのも魅力的だが、あえてゆったりとした時間を過ごすのも、またオツなもの。

白い砂浜に大きなパラソルをたて、トロピカルなドリンクを一杯。



ゆったりとしたひと時

日頃の疲れも一瞬で吹っ飛んでしまう爽やかさ。これぞ完璧なバカンスの過ごし方である。

夏のビーチは、そこにいてだけで楽しい気持ちになってくる。

普段、物静かなタイプの記者も.....



最高の夏、来ました

浮かれた自撮りをしてしまう。



「ハワイ、最高!!!」

いまにもそう叫び出しそうだ。降り注ぐビーチの日差しに身も心も開放されまくりである。海がこんなに楽しいとは思わなかった！

インドア派の記者が、ここまで浮かれてしまうとは……。さすがは、夢の楽園「ハワイ」！

日常から切り離された別世界

砂浜を歩き回ったり、海に足を浸したり、澄んだ水の中を覗いてみたり……。楽しい時間は、あっという間に過ぎていく。すぐに帰りの時間が来てしまった。

名残惜しいが、次の便に乗らなければスケジュールが狂ってしまう。ビーチに別れを告げ、乗り場へと向かう。

記者を待っていたのは……



おや……？

ちいさな船だ。

日本の本州まで、ここから10分。

ハワイがそんなに近いわけない？ そんな皆さんに種明かし。

実は記者は、福井県にある「北陸のハワイ」を満喫していたのだ！



ここが水島だ！（写真は福井県提供）

青い海に白い砂浜——。ハワイのようなビーチが楽しめるのは、敦賀湾に浮かぶ「水島」。

毎年7月と8月の期間限定（21年は7月15日から8月22日まで）で渡航できる、福井県敦賀市の無人島だ。

ご覧の通り、海の透明度は抜群。



ここが「海」...？

水が綺麗すぎて、遠浅のビーチはどこまでも見渡すことができる。



水中カメラで撮影

さすがに日本海なので熱帯魚は観測できなかったが、代わりにこんなかわいい海の生き物たちにも出会うことができた。



ヒトデは水中カメラで撮影、水が超透明だ！

ヒトデとヤドカリだ。石がたくさん転がっていると思ったらヤドカリだった。小さくて可愛い.....。

水島は、全長500メートルほどなので、島の端から端まで歩いて20分はかからない。

お気に入りのスポットを見つけて存分に泳ぐもよし、ただ海を眺めるのもよし、思い思いの過ごし方が出来る場所だ。



こんもりとした木々

島の中心には松の木が密集している。

日陰になるからか、その下にテントやビニールシートを敷いてくつろいでいる人も多かった。

余談だがあまりに霧田気が南国なので、記者は途中でだんだんマツがヤシに見えてきていた。

ヤシ.....ではなくマツの木越しに見る海もなかなか風情がある。



ヤシ...じゃなくてマツ！

水島への行き方は？

「北陸のハワイ」という呼び名がピッタリな、最高のパカンスを満喫できる水島。友達同士でも、家族でも、恋人同士でも、何ならひとりでも楽しめる場所だ。

だが、行ってみたいけど無人島なんて行くのが大変そう……。そう思った人もいることだろう。記者も人生初の無人島上陸だったので、無事に辿りつけるか心配だった。

しかし、なんとこの水島は公共交通機関だけで行ける「身近な無人島」なのだ。



敦賀駅（福井県敦賀市）

スタート地点は、ここ、JR敦賀駅。

ここまでの主な交通手段は名古屋・金沢間を走る特急列車「しらさぎ」および大阪・金沢間を走る「サンダーバード」だが、2024年春には北陸新幹線金沢～福井・敦賀間が開業予定。

そうなると、水島にはよりいっそう行きやすくなるだろう。



もうすぐ新幹線が..!

駅を出たら、水島行きの船乗り場がある「色ヶ浜」を目指す。

色ヶ浜には、敦賀駅から出るコミュニティバスの4番乗り場から「(2) 常宮線立石行きバス」に乗り、30分ほど。



4番乗り場は「常宮・松原・東浦方面」

敦賀駅発のバスは通常、6時58分、12時50分、17時25分の1日3便。

水島が海開きしている期間は増便されるようで、記者が訪れた際、乗り場には21年7月17日から8月15日の土日祝日限定で、10時5分と14時20分にも運行があった。

ちなみに色ヶ浜周辺にはコンビニ等はなく、島も景観保護のため設備は簡易トイレしかない。

水島でのパカンスを最大限に楽しむため、買い出しなどは敦賀駅周辺で済ませておこう。



もうすぐ到着……!

色ヶ浜のバス停から、船のりばまでは歩いてすぐ。

なお、色ヶ浜から敦賀駅までのバスは7時47分、13時49分、18時20分の3便。

こちらも21年7月17日から8月15日の土日祝日限定で、11時4分と15時29分発を増便している。



船に乗って、水島へ

船のりばでは、朝9時から約10分間隔で14時まで水島行き船がピストン運航している。

また、水島から色ヶ浜桟橋までの運航は、10時から15時までとなっている（どちらも12時から13時は運航停止）。

乗船料金は子ども650円、おとな（中学生以上）が1200円（往復）。

ここから10分ほど船に乗れば、水島に到着だ。



身近な無人島、水島

バスや船の運行・運航状況・ダイヤについては水島行き船を運航するオーミマリンの[公式webサイト](#)もチェックしてほしい。

なお、週末やお盆など、混雑する時期には入島制限がかかることもある。

人数オーバーで来た船に乗り切れない可能性もあるため、余裕を持ってなるべく早い時間から行くことをオススメする。

水島の美しさや、足を踏み入れた時の感動は、やはり直接体験してもらうのが一番だ。この記事参考に、一度は訪れてみてほしい。

こんな場所があったなんて……。地味にすごいぞ、福井！

あなたはこの記事を読んで福井県に

行きたい? 0



<企画編集・Jタウンネット>